

平成27年度 村上市岩船郡音楽部 活動報告

部長 南波 泉

1 研究主題

音楽に親しみ、喜んで表現したり鑑賞したりする子を目指した音楽授業

2 研究の概要

- | | | |
|-----|------|------------------------------------------------------------------------|
| 4月 | 音楽部会 | 事業計画の作成（研究テーマ、活動計画、活動費など） |
| 5月 | 代表部会 | 活動内容の詳細について |
| 8月 | 音楽部会 | 講習会 鑑賞指導について（楽しい聴き方・聴かせ方）
講師 筑波大学附属小学校 中島 寿 様 |
| 8月 | 音楽部会 | 指導案検討会 |
| 10月 | 音楽部会 | 研究授業 授業者 村上小学校 教諭 小野 理恵
題材名 第5学年「曲想を味わおう」
指導者 新潟大学教育学部教授 伊野 義博 様 |

3 研究の実際

○ 講習会について

中島先生からは、鑑賞指導の仕方について、どのように行えばよいのか、実際に授業を受ける側の立場に立って学ぶことができた。また、実際の指導にあたって留意すべき点を多く教えていただいた。その1つに以下のようなことがある。
学校での音楽鑑賞は、「鑑賞の授業」であるため、「ねらい」を設定し、それに従って「聴き方」を学習しなければならない。そのねらいは、何を聴けばよいのか焦点化することが大事である。「音色」「強弱」「音の重なり」「反復」「問いと答え」など、共通事項の「要素」や「仕組み」がねらいにできる。そして、ねらいが聴き取れる部分を探す。そして、聴き取れたかどうか、手を挙げる、体を動かすなどの活動をさせて見取ることができる。このように、ねらいをしっかりとって指導にあたらなければならない。

○ 研究授業について

授業者は、「歌詞の内容や曲想に合う歌い方を工夫し、自分なりの思いを込めて歌うことができる。」をねらいとした。そして、「まっかな秋」をグループごとの課題に近づくように録音演奏を聴き、意見を交わしながら思いを込めて歌い上げる授業を行った。

2つのグループ共に、リーダーを中心に、前時までに学習した練習方法が記入されたカードをもとに「まっかな秋」の3段目から繰り返し練習を行った。リーダーは、「mfからfだから、『てらされて』のてで音を上げて。」とか「『まっか』のかのところで高音技を使えばいいよ。」など、強弱や手の動きを示しながら学習を進めた。グループの子どもたちは、各リーダーの指示をよく聞いて、積極的に歌ったり、活発に意見を交わしたりする姿が見られた。授業中盤では、聴くポイントを示してグループ発表を行い、良かったところを伝え合った。「息を吸うタイミングが一緒だった。」「大きな口が開いていた。」「みんなの体が動いていた。」など相手グループから高評価を得ていた。

授業後半では、個々に教科書に自分の思いを書き込み、全員で歌った。子どもたちは、これまでの学習を生かして自分の思いを込めて歌い上げた。

協議会では、「力強いリーダーが引っ張っていた。かなり歌ったが意欲が続いた。これは、課題が明確であったからである。」「役割分担がしっかりとできていて歌った後に『こうすれば』というような発言が活動につながっていた。」という意見が出された。一方では、「一人一人の工夫はできていたのだろうか。思いとは、イメージをもって歌うことなのではないか。技能面に偏っていたのではないか。」という意見も出された。

伊野先生からは、自分がどのように学ぶか子どもたちが学んでいた。自分がどのような思いをもち、知識を活用し、友達をどのように受け止めてどうなったかという流れがこれから求められることであるとご指導いただいた。

4 成果と課題

- 「鑑賞指導」について、難しさを感じていたが、筑波大学附属小学校 中島 寿先生に指導の実際を分かりやすく教えていただき充実した研修を行うことができた。また、今回の研究授業における指導のヒントにも繋がり大変役立った。
- 講習会や指導案検討、研究授業を通して研究主題に迫ることができた。
- 外部講師から学ぶ機会をもてたことは、専門的な知識を学び音楽技術を高めることに繋がった。
- 研究協議会において、少人数ごとの話し合いがもてるスタイルにするなど、多くの部員の意見を吸い上げられるように考えていく必要がある。

